



黒小だより



令和7年 7月25日

第4号

【今年度の重点目標】 ～豊かに表現し、学びを深める子の育成～

○学ぶ楽しさと成長を実感できる学校 ○元気な挨拶と思いやりにあふれる学校 ○保護者・地域の信頼で結ばれる学校

実体験で自分を磨く

校長 半田 健一

先月の後半から暑い日が続き、今週は猛暑。一月くらい早く本格的な夏が訪れたような気がします。関東で暮らす知人によると、「季節が夏と冬だけになっている」感覚だそうです。厳しさも年々増してきているのではないのでしょうか。私が子どもの頃には日が暮れるまで友達と外で遊び回り、水筒を持ち歩くなんていうこともしていなかったのですが、最近は危険な感じがします。夏に外で飲むビールは美味しいですが、ちょっと暑すぎて心地よさがいいなあと…。

感覚的な話をしましたが、気候の変化はデータで明らかになっています。過日の北海道新聞でも「観測史上最も暑い6月」であったことや、「北見市がその日の全国一の暑さを記録した」ことなどが報道されていました。

現在の社会ではあらゆるものが数値として与えられます。気温だけではなく暑さ指数が測定され、学校での熱中症対策においても欠かせない数値です。(算出要素不明ですが) ビール指数というものもあり、ビールを飲む理由として活用できます。また、アプリが歩数や消費カロリー、睡眠時間まで通知してくれます。食品には賞味期限か消費期限の表示が義務付けられています。

数値で見える化されていることは便利で、役立つものですが、一方で「五感」も大切です。「じりじり暑い」「急に冷たい風が吹いて、暗くなってきた」「運動不足だな」「いつもの身体の調子と違う」「食べようと思ったけれどにおいがおかしい」…自分が感じることは、それならどうするかを考えることにつながります。「建物の中に入ろう」「明日は身体を動かそう」「食べるのはやめよう」というように…。どんな未来が待っているのか想像もできませんが、最後に自分を守ってくれるのは五感なのではないのでしょうか。五感が鈍れば、判断も遅れますから、日常の中でいろいろなものに触れ、感覚を磨いておかななくてはなりません。ゲームの中ではなく、子どもが遊びや手伝いを通して実体験を積むことの一番の意義はそこにあるのだと思います。

今日で一学期が終了。今年度は児童と一緒に取り組む「月別ミッション」として、4月から「あいさつ」「力を合わせる」「思いやり」「伝え合う」というテーマを設定して取り組んできました。

7月の登校時、校門前の横断歩道に着いた6年生が、信号機のボタンをなかなか押さないののでどうしたのかなと思っていると、少し離れて1人で歩いてくる1年生が見えました。次の青信号で1年生も一緒に渡れるように、近づくまで待って押してくれました。数日後、別の6年生はゆ〜くり歩いていた1年生を励ましなが、歩調を合わせて一緒に登校してくれました。かなり遠くから、遅刻ギリギリの時刻だったので葛藤もあったでしょう。暑い朝でしたが、自分以外の誰かに思いを向ける心の温かさが心地よく感じられました。毎月意識させていることが子ども成長につながっていることはとても嬉しいことです。もちろん、まだ物足りないところや、できるようになったことがまたできなくなったりということはあるのですが、子どもの成長は日進月歩とはいきません。「3歩進んで2歩下がる」ことを認めながらの教育活動を進めていきます。

明日からの夏休み、子ども達は、多くの自由な時間を持つこととなります。その時間を使いながら達成を目指す「夏休みミッション」についてお子様と話し合っただけであれば幸いです。暑さに注意しながらも、多くの実体験を積み、楽しい時間になるようご支援をお願いいたします。